

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4270135108		
法人名	社会福祉法人 小榎アスカ福祉会		
事業所名	グループホームひばり		
所在地	長崎市みなと坂1丁目6番35号		
自己評価作成日	R8年1月17日	評価結果市町村受理日	令和8年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 8年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念である、お客様の尊厳を大切にし、お客様中心で、良質のサービスを提供することを大事にしている。
ひばりの理念は、「笑顔・真心・思いやりのある温かいお家」「みんなが遊びに来れる楽しいお家」「安らぎのあるのんびりしたお家」ということを掲げ、ご自分のお家と感じてもらい自由に生活できるように支援している。
起床や食事時間も、お客様に合わせて柔軟な対応を心がけ、お客様それぞれ持っている力を生かして過ごしていただくようにしている。
食事に関しては、口から食べていただくことを大事にし、食形態の工夫をし、口腔ケアを徹底している。
重度になっても最後までひばりで生活できるように、主治医やご家族と相談しながら対応している。
ICTを活用し、記録のペーパーレス化に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念と行動規範を示した法人フィロソフィーに基づき、職員は家庭的な雰囲気の中、利用者の思いに共感し、笑顔を引き出す支援に努めている。母体法人は、開設時より認知症理解のための講演会や見守りネットワーク等、地域の福祉拠点としての役割を担っている。その講演会や交流学习で事業所を訪れる小学生との触れ合いは、利用者の楽しみとなっている。理事長の思いである“安心して暮らせるまちづくり”の構築に加えて、小学生の思いやりの心も育んでいる。在宅診療や協力医の充実で、近年は複数の看取り事例があり、入居から最期までを安心して過ごしており、家族から厚い信頼が寄せられている。館内でのボール遊びや歩行訓練等、職員と利用者の笑い声から、コミュニケーションの良さが窺え、理念の具現化が定着している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は、毎朝朝礼時に唱和しているが、ひばり職員は勤務の都合上毎回の参加はできていない。法人理念は事業所内に提示し、身近に感じよう環境にはしている。 月1回のひばり会議や法人の全体会議でも唱和しており、理念を基に業務していることは身近に感じている。	理念は、事業所の各所に掲示すると共に、法人や事業所会議の折にも唱和し、原点に立ち戻ること、職員間の意識を高めている。訪問者を丁寧に迎え信頼関係を築き、利用者には焦らせず、本人の意向を尊重した支援に努め、日々を笑顔で過ごせるよう、職員も笑顔を意識し理念の具現化に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人がみなと坂の自治会に加入し、職員は自治会の行事に参加している。 小楠小学校や西泊中学校の生徒さんとは、定期的に交流を行っている。 西泊中学校の合唱コンクールに招待されたり、職員が福祉の仕事についての講話に出かけたりしている。	法人が自治会に加入しており、毎月開催する介護予防教室他、地域行事を通じて住民との信頼関係を築いている。法人主催の講演会他、交流学习の一環で事業所を訪れる小学生の歌や演奏、踊りを楽しむ等、利用者を含めた地域の高齢者が、安心して暮らせるまちづくりに法人をあげて取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和7年7月の法人22周年記念講演会はコロナ前の状況に戻して開催し、認知症について菅崎先生の講演があり、ひばりのお客様も講演会や余興に参加することができた。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所の行事及び研修報告、ヒヤリハットや事故の内容を報告している。 会議開催時は質疑応答の時間を設け、意見交換を行っている。 会議の資料をご家族に送付できていない。	これまで法人合同で2ヶ月毎に開催していた運営推進会議を、市の指導により事業所単独で開催している。行政や地域知見者、家族代表等が参加し、利用者の状況報告の他、事故報告は原因を分析し対策を公表している。意見交換の様子は議事録から確認できる。ただし、全家族への議事録の送付は、1月に始めたばかりである。	参加がない家族にも議事録を送付することで、事業所の取組に関し、より深く理解を得ると共に、意見や要望を聴取し、更なる支援の質の向上に繋げることに期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新の手続きや事故報告の提出時などに、事業所の実情を伝えている。 運営推進会議時にも、助言をいただいている。	職員は、行政主催の“生産性向上”に関する研修をオンラインで受講している。介護保険更新手続きや事故報告等、行政窓口で行う他、事業所の状況報告や運営上の不明点を尋ねている。今後の各手続きは、長崎市電子申請サービスの利用を進める等、行政と協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行ない、センサーマットは拘束になることを認識し、定期的な会議を行ない必要性の検討をしている。 職員が一人になる時間(19:30～7:30)は、安全のためひばり玄関に施錠している 施錠忘れで、離設事故を起こしている。	身体拘束廃止委員会では、安全面を考慮したセンサー使用の是非を検討している。年2回の研修では、言葉掛けや施錠に関し協議している。離設事故を防ぐため、同館法人他施設の協力を得て対策を講じている。帰宅願望には否定せず、職員が寄り添い拘束のない支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待はしないということを研修を通して認識するようにしている。 スピーチロックやグレーゾーンの部分に関しては、職員も意識しないまま行っていることがあるので、できるだけその場で伝え合うようにしているが、徹底できている状況ではない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、研修で学ぶ機会を作っている。 日常生活支援事業は現在利用している方はいないが、必要時はケアマネジャーを中心に検討していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学してもらい、ホームの雰囲気を見てもらった上で契約を行っている。 契約は主に、管理者・ケアマネジャーが行っている。 契約後は他職員も面会時などにコミュニケーションを図り、ご家族が相談しやすい雰囲気、信頼関係づくりに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡時にコミュニケーションを図り、話していただける環境作りを心がけている。 ご家族と職員が意見交換を行う家族会は、開催することができていない。	職員は日常的に、利用者や家族の要望を聞き取っており、誕生日のプレゼントや食事に対しての希望に応えている。家族の意見は、面会時に尋ねる他、遠方の家族には手紙で利用者の様子を丁寧に伝えている。家族からは、「歩かせてほしい」等の要望があり、介護計画に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者とは、個別面談の機会が設けられている。 管理者も職員と個々に話す機会を作るようにはしているが、職員の本音の部分を引き出すまでには至っていない。 意見や提案を言いやすい雰囲気を作るように努め、ケア会議時にも職員へ意見を聞いている。	理事長や管理者は、毎月の給料日や賞与支給日に明細書を職員へ手渡し、声を掛けている。職員は、個別に年度目標を立てており、管理者と年1回の面談で進捗状況を確認するとともに、要望を伝えている。研修の受講費用の補助や育児休暇等労働環境に配慮した職場である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産休や育児休暇、介護休暇に協力的であり、職員の状況に合わせた勤務形態、勤務時間の調整に努めている。 2か月に一度メンタルヘルス相談室があり、希望者は利用することができる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修が毎月1回行われている。 初任者、中堅、管理者等の階級に合わせた研修もあるが、今年度は実施できていない。 外部の研修案内や受講手続き、費用や出張扱い等のバックアップがある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で他事業所と合同の勉強会があり、意見交換する機会がある。 グループホーム連絡協議会に加入しているが、研修会への参加や交流ができていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に面会に行き、顔合わせを行っている。 ご家族や担当ケアマネより情報を得て、ご本人への理解を深め不安感の軽減に努めている。 入所後は、表情等様子観察、コミュニケーションを取り、安心できる雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の様子や、ご家族の不安、困っていることについて傾聴を心がけ、話しやすい雰囲気作りに努めている。 入所後は適宜連絡を取り、ご家族やご本人の要望はなるべく受け入れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学に来られた方へ、法人内の他の事業所の紹介も行っている。 ご本人やご家族のニーズに合った支援ができるように、担当ケアマネジャーとも相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗い物や洗濯物等、家事を一緒に行っている。 お客様と職員の関係ではあるが、生活を共にしている仲間としての関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の状況に合わせ、ご本人馴染みの日用品を準備して頂いたり、受診の対応をお願いしたりしている。 面会や電話連絡を通し様子をお伝えし、ケアの方法についても報告し、一緒に考える機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策のため、面会時間は15分の制限を設けている。 感染予防対策を行い可能な限り交流できるよう努めている。	家族とテレビ電話で会話している利用者や、正月に家族と旅行を楽しむ利用者がいる他、通夜に参列する人もいる。利用者は、職員と1対1になった際に、自分の若い時の思い出を話している。今年度は、職員が利用者のファッションショーを企画し、夫々が化粧して好きな服を着て、楽しい時間を過ごしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の位置配慮は行っている。 レクリエーションや誕生日会にて交流の機会があり、お客様同士の会話には、必要に応じて職員が間に入りそれぞれの距離感に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も初盆参りに伺ったりして、お話しする機会がある。 近くへ来られた際はご家族が来所されることもあり、近況などを伺い交流している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でご本人の希望や意向を聞くようにしている。職員が関われる時間を個別に作り話しやすい雰囲気作りに努めている。 お客様の思いを想像して職員間で共有し、その方にとってよりよい生活ができるよう取り組んでいる。	起床、就寝、テレビの鑑賞は基本的に自由である。職員は、利用者の思いや意向を聞き取った際には、パソコンに入力して、共有化を図っている。 誕生日に食べたい物やプレゼントについて聞き取ったり、外の空気に触れたい人には、職員が付き添って、建物を一周することを習慣にしている例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご自宅に訪問し、生活の様子を見せて頂いている。 生活歴や大事にしている習慣をご本人ご家族、ケアマネジャー等に聞き情報を得ている。 入所後はご本人やご家族との会話で理解を深め、ご本人らしく生活できるよう関わっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録を用いて、表情や会話から日々の体調や気分を知り、1人1人のペースで過ごして頂けるよう努めている。 ケア会議では、職員が意見や気づきを出し合いケアへの反映に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族とは面会時や電話で本人の様子を伝えている。 ケア会議では、職員間でケアの方法、課題について意見を出し、介護計画に反映している。 ご本人の状態の変化や気になることがあれば、随時介護計画の見直しを行っている。	面会時の家族の意見や本人の思いを汲み、介護計画を作成し、了承を得て実践している。ケアマネジャーは、ケア会議における職員の意見を集約し、24時間シートやケアプラン実施表を基に見直しを行っている。階段昇降等、下肢筋力の維持や家事手伝い等、本人の生きがいに通じる目標設定となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は生活記録として個別に記入している。 入所後しばらく様子の変化が大きい間は詳細に記入できるよう24時間シートを活用している。 気づきや関わり方も記入し職員同士の情報共有に努め、実践し介護計画の見直しに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	機会は少ないが、一時帰宅や外出支援を行っている。 家庭内の介護力に合わせ、ご家族への支援を行うよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	機会は少ないが、スーパーにお客様と買物に出かけている。 地域の小学生との交流があり、楽しいひと時を過ごして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後かかりつけ医への受診を継続している。 ご本人の状態に応じ往診専門医の紹介を行い、適切な医療が受けられるようご家族と相談している。 通院時や体調不良時はかかりつけ医に随時報告を行っている。	入居以前のかかりつけ医を継続支援している。個別に契約を交わし訪問診療を受ける利用者がいる。通院は家族対応とし、職員が対応のこともあり、受診結果は、職員と家族で共有している。看護師が2名在勤しており、日々の健康管理や主治医との連携、また夜間のオンコール体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	食事や排泄、バイタルの状況、日々の変化を看護師へ適宜報告しており、相談しやすい関係作りに務めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はソーシャルワーカーや看護師と連絡を取り、情報を得ている。 医師の説明時には、ご家族の同意を得て同席し意見交換を行っている。 病状が安定したら早期退院できるよう、環境の変化の重要性についても話し合うよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期のケアについては説明を行っているが、身体状況に応じて段階的にご家族とも話し合いを行っている。 看取りケアの経験も伝え、ご本人やご家族の希望を第一に考え終末期を穏やかに迎えられるよう、介護者側にできることは何かを考えている。	契約時に、事業所の終末期に向けた方針を家族と共有している。利用者の体調変化時に、改めて主治医を交えた話合いで、看取りの同意書を交わしている。看取り介護計画書に沿って、昨年、一昨年と複数の支援がある。振り返りで、職員をフォローし、本人・家族の思いを尊重した終末期、看取り支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法、AED取り扱い講習を受ける機会がある。 お客様の体調悪化が見られる時は個人情報をもとめ、緊急時の対応や緊急連絡方法の手順確認をしている。 職員ごとに対応力に差がある事が課題としてあるため訓練により身につけられるよう努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	建物ごとでの総合訓練、事業所の避難訓練を行っている。 訓練は火災や自然災害を想定し、お客様にも参加してもらい実施している。 BCPは作成し、災害時マニュアルの見直しはしている。	BCPは策定済みで、停電時に備え、法人間の連絡網を整備し蓄電池を購入予定である。また、緊急持ち出し品を整備している。自主火災訓練として昼間想定で1回実施の他、毎月の訓練では消火器、消火栓、排煙窓等、職員間で操作確認を行っている。ただし、夜間想定や法人合同の火災訓練が未実施である。	自力避難が困難な利用者や限られた夜勤職員の命を守る為にも、夜間想定の方災訓練実施が待たれる。近隣に法人施設があることの強みを生かし、3月に予定している法人合同の協力体制による火災訓練に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の気持ちを持った上で話しかけている。 職員の発言で気になるところは職員間で意見交換し、見直すようにしている。 お客様の情報を共有、尊厳に配慮しその方にあったケアにつながるよう心がけている。 居室のドアに暖簾つけ中が見えないよう配慮している。	管理者は、職員に利用者への声掛けのトーンに注意するよう指導している。利用者の呼び方は、苗字にさん付けである。利用者の介護記録は、名前が見えないよう収納したり、職員間の打合せをリビングで行う際は名前を出さず、プライバシーに配慮している。職員は、採用時に守秘義務の誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が主導ではなく、本人の意思、希望を尊重する言葉かけや、話しやすい雰囲気作りに努めている。 意思表示、決定が難しい方には選択し易い質問の仕方や、自己決定し易い方法を心がけている。 表情や仕草を観察し思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事、入浴のタイミングは、できるだけご本人のリズムに合わせて行うよう心がけている。 職員の体制によって対応が難しいときもあるが、個別の希望に沿ったケアができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室があり、希望する方は利用することができる。 洋服は入浴時など選択肢を作り、選んでもらえるよう働きかけている。 整容時は、馴染みの化粧品など使用したり、行事の時は化粧などおしゃれを楽しめるよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食チルド食で提供しているが、1人1人食べやすいように、食材の大きさなど工夫している。 お客様によっては、飲み物が冷めると進みが悪い方もおられるので温めなおして提供している。 食事作りはしていないが、食器洗いは数人の方がして下さっている。	通常は、配食業者を利用しており、行事の際は、事業所で手作りしている。敬老会では、利用者と一緒にカレーを作ったり、クリスマスのハンバーグや誕生日を手作りケーキで祝っている。テーブル拭きを手伝う利用者もあり、家庭の温かみのある食事風景である。家族と外食を楽しむ家族もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時間にとらわれず、ご本人が食べたい時食べられるよう配慮している。 食事や水分が進まない時は、食べやすい物や好みの味、温度など気がけて提供し、チェック表も活用しながら摂取量の把握に努めている。 必要な方には栄養剤も取り入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。 できる部分はご自分でして頂き、適宜声掛けや、仕上げ磨きの介助を行っている。 訪問歯科を利用している方は、磨き方についても指導をして頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表情や仕草を観察し、本人からのサインを汲み取るよう心がけている。排泄チェック表を活用し、パターンを把握することでスムーズに排泄ができるよう努めている。 排泄用品は身体状況、排泄状況に合わせて見直したり、オムツやパットの種類も必要に応じて見直している。	事業所では、トイレでの排泄を基本としており、ポータブルトイレの使用は夜間のみである。職員間でパットの厚さについて検討を重ねており、介護度が高い利用者であっても、排泄の自立に向けてオムツは使用せず、リハビリパンツとパッドで対応している。パッド類は自室のクローゼットに保管し、羞恥心にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や腸に良い食品を取り入れながら、便秘予防に努めている。 臥床時間が長い方も排泄はなるべくトイレへと誘導しマッサージ等を行っている。便秘解消に向けて意見交換し、水分摂取状況や排便時の声掛け、場合によっては、内服薬調整のケアに繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴1日2～3人のペースで行っているが、職員体制等によって対応できない日もあるが、その場合は、清拭や手指浴等実施し清潔保持に努めている。 入浴時間はある程度時間決まっているが、覚醒状態、気分や体調に合わせての変更を心がけている。 リフト浴もあり、入浴剤も楽しんでもらっている。	毎日湯を沸かしており、週に2、3回の頻度で入浴を支援している。機械浴を備えており、全員が浴槽に浸かることができる。点滴中はシャワー浴で対応したり、入浴日以外は手浴も行っている。入浴剤を数種類準備して、リラックスできるよう配慮している他、同性介助の希望にも応えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、家事や体操行い、活動的な生活促している。 休みたい時は居室やリビングなどでゆっくり過ごしてもらえよう、スペースを確保している。 寝具や室温、居室内の環境の見直しを行ない、安眠できるように努めている。 夜間睡眠状態に応じ、日中の休憩時間のタイミング調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や注意点についてまとめた薬情作成し、参照しながら薬確認、職員間でダブルチェックを行っている。 訪問薬剤師へ服用方法や副作用について指導を仰ぎ、安全に服薬して頂けるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器洗いに参加され、役割と感じている方もいらっしゃる。 生活歴の中から活かせることを考えたり、実際の活動から得意な事を探し、日々のケアに取り入れている。 誕生日のお祝いやレクリエーションに参加したり、周囲を散歩したりし気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を好まれるお客様もいらっしゃり、買い物・散歩・ドライブ・外に出て景色を眺めるなど、気分転換を図っている。 お客様3名様と海の近くまでドライブに行き、潮風を感じながら会話が弾み、楽しめたこともあった	天気の良い日は、港を見下ろすウッドデッキで日光浴を行ったり、行き交う船を眺めている。日常的に事業所の周囲を散歩したり、職員の買い物に同行するなど戸外に出掛けている。春には、駐車場の桜を楽しむこともできる。家族の協力を得て、ドライブや食事に出掛ける利用者も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい為、ご家族よりの預り金を金庫で保管している。 ご本人の希望があれば、必要な時はいつでも使用することができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時はいつでも対応している。 遠方のご家族ともお電話でお話できる機会を作れるよう働きかけている。 ご家族からのメッセージや手紙は目を通してもらったり読んで伝えたりとご本人に見てもらうことを心がけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには中庭があり、室内でありながら自然光を浴びることができ、ベランダ側からは海と山の景色が楽しめる。 リビングからは、台所にいる姿が見え、食事を準備する音や香りを感じ、家庭的な雰囲気生活できている。 季節の飾りつけをしたり、室温や湿度は定期的に確認し、換気もしている。	中庭の明るい陽射しと、植物の緑によって癒しの空間となっており、中庭を囲む回廊は日々の歩行訓練に活用している。職員は、調理の合間に利用者を見守る等、家庭的な雰囲気である。新聞を読んだり職員を囲んでボール遊びしたり、利用者は思い思いに過ごしている。清掃や換気が行き届き、清潔に配慮した快適な環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや一人がけのリクライニングチェア、和室のスペースがあり思い思いに過ごして頂いている。 その日の気分や覚醒状態によって居場所を選択し、お客様が安心して落ち着いて過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れたものを持ち込んで頂いたり、写真や花を飾り、その方らしい居室になるようにしている。 居室で過ごす時間が長い方は、外の景色やご家族の写真が眺められるようベッドの配置を変更したり、ご家族と相談しながら気持ちよく過ごせるよう心がけている。	居室入り口の暖簾から自室として認識でき、個性豊かで温かみがある。馴染みの家具やテレビ等を持ち込み配置している。ドレッサーに化粧品や櫛、壁には家族写真、枕元に自作のバッグ等、愛用品を置くことで、安心感へ繋がっている。清掃や換気、加湿器等で快適な居室となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間用に床や手すりに反射材テープを取り付けたり安全に移動できるよう導線に配慮している。 トイレ内は、ご自分で汚染物の処理ができるようごみ箱の位置を工夫している。		